

# 4社とも来期最高益

## マンション販売中堅

マンション販売中堅  
4社の業績見通し

	売上高	経常利益
明和地所	900(13)	100(17)
扶桑レクセ	1,000(11)	110(10)
ゴールドクレ	750(6)	30(56)
ジョイント	800(7)	51(70)
ジョイント	210(135)	35(145)
ジョイント	580(167)	95(171)
ジョイント	254(41)	20(59)
ジョイント	410(61)	39(95)

(注)上段2000年3月期、下段2001年3月期。単位億円。カッコ内は前期比増減率、%

## 住宅減税延長が追い風

### 明和地所 売上高100億円乗せへ

明和地所、扶桑レクセルなどマンション販売中堅四社は、二〇〇一年三月期の経常利益がそろって過去最高を大幅に更新する見通しだ。マンション価格の低下を背景に賃貸マンションからの乗り換え需要が持ち

盛ならえ、住宅取得促進税制の対象期間が二〇〇一年末まで一年延長されたことが追い風になる。大手デベロッパーはバブル崩壊後の保有不動産の含み損が依然として収益を圧迫しているが、中堅四社は財務体質が比較的強固であるうえ、一戸当たりの利益率が高いことも業績好調につながっている。

みそらだ。売上高も五百六十億円程度とほぼ二・七倍程度増える。来期の販売計画は約千七百五十戸で、三月末までに千二百一十三戸の契約獲得を目指す。社員数が約四十人と同業他社に比べて極端に少なく、固定費の負担が軽いため、売上高の伸びが利益に結び付きやすい面がある。

ジョイント・コーポレーションの経常利益は今期推定比九五%増の三十九億円とほぼ倍増しそらだ。売上高は六一%増の四百十億円を見込む。インターネット販売の強化などで営業効率を向上させるほか、東京・品川などで高額のニューブランドを供給する方針で、利益拡大に寄与する見込み。すでに七割前後の契約を終えている。

扶桑レクセは今期中に長期滞在在庫の処分を完了する。このため来期以降は売却損が解消し、売上高総利

明和地所は来期、二千五百戸程度の販売を計画している。売上高は初めて一千億円台に乗せる公算が大きい。すでに想定販売戸数のうち八割前後について契約を終えている模様。二〇〇〇年三月期の経常利益は前期比一七%増の百億円と過去最高を更新する見通しだが、来期も一〇%増の伸びを見込む。

ゴールドクレストの来期

の経常利益は今期推定比二・七倍の九十五億円に膨らみそらだ。売上高も五百六十億円程度とほぼ二・七倍程度増える。来期の販売計画は約千七百五十戸で、三月末までに千二百一十三戸の契約獲得を目指す。社員数が約四十人と同業他社に比べて極端に少なく、固定費の負担が軽いため、売上高の伸びが利益に結び付きやすい面がある。

益率が一五%弱から一七%強にまで改善しそら。売上高は七%増にとどまるが、経常利益は七割増えそらだ。